

企業名：ウエルシアホールディングス

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指す姿が理解できるか

十二分に理解できる。

今までのドラッグストアの機能を専門性と利便性の面からもう一段階拡大させていくという方針を「ウエルシアモデル」という言葉で上手くまとめられていた。目指すビジョン「生活のプラットフォームになる～専門総合店舗の実現～」がどのようなものでどう実行していくのが明確で想像しやすかった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

やや理解できない。

「ウエルシアモデル」の言っていることは分かるが、それがなぜ優位性(他の会社より優れているか、差別性)になっているのかはこの資料だけでは分からなかった。「自社の課題」のようなテーマの部分でも、絶対評価的な指標の側面が強く、あまり競合他社との比較はなされていないように感じる。ウエルシアはドラッグストア業界でトップ企業のようなので、差別化を志向するというよりは、同質化を志向する傾向であるはずだから仕方ないのかもしれない。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

やや理解できない。

様々な箇所でSDGsなど環境・人権の問題について言及されており、そういった持続性については評価の高そうな内容であった。だがその一方で‘競争優位性’の持続性についてはあまり言及されていないように感じた。「マテリアリティ」の「商品・サービス方針」で取り上げられていたのはこの話なのだろうか。その判別は出来なかったが、その内容も深いものではなかったのであまり理解できないという結論に至る。そもそも競争優位性がはっきりしないのでこの項目は論じづらい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

やや思う。

この報告書の内容は主に会社として目指していく方向性や重要視する項目の周知である。そのため、時折「従業員教育」のような話も出てくるが、主要な話題ではなく、軽く触れられる程度に収まっている。「社長のメッセージ」でも、どうも踏み込んだ話がない。しかし、「人的資本を重視した経営の実践」という欄で「多様な働き方」「従業員の健康」「スキルアップ・キャリア教育」のように詳しく述べられていたので、それなりに重視している項目の

ようだ。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

内容面ではないが、取締役の出席回数の表示で「〇〇回中/〇〇回出席」のように分母と分子の関係が変になっているのが少し気持ち悪かった。

そういうものなのかもしれないのだが、ずっと自社の話ばかりで競合他社との比較がなかったのが少し残念だった。やろうとしていることはこの資料だけでも十二分に伝わるのだが、実際にどんな障害があってそれにはどう対処するのか、という要素が欲しかったと感じる。